

令和5年度「スクール読書チャレンジ運動」実践報告書

学校名	白石町立有明南小学校 児童数 97 人	担当者名	多久島三千代・吉原ゆかり
住所	郵便番号 849-1207 杵島郡白石町深浦 5582	電話番号	0954-65-4169

◆ご提出いただいた個人情報は、本事業のためのみに使用し、それ以外の目的に使用することはありません。なお、県における個人情報の取扱いについては、佐賀県個人情報保護方針 (<https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00319144/index.html>) に定めています。

I.取組前の宣言内容

宣言	目標	本の世界をみんなで楽しもう！ ～地域の力と委員会活動で、本の魅力を発信しよう～
	取組期間	令和5年4月12日 ～ 令和5年11月30日

※令和5年4月1日以降、各学校が取組みを始めた日から、令和5年11月30日までの取組みとする。

II.取組後の評価

評価	取組人数	97 人	実施日数	129 日	読書冊数	13275 冊	連携した団体数	3 団体
	取組内容（概要）	<p>(1). 地域の力で、読書の幅を広げる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公立図書館との相互連携 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な本の借用 ・児童作品掲示の依頼 ②お話ボランティア「山びこの会」の読み聞かせ <p>(2). 主体的な委員会活動</p> <p>(3). 本の世界へ導くための取組</p>						
	工夫したこと	<p>(1). 地域の力で、読書の幅を広げる取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公立図書館との相互連携 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な本の借用 <p>1ヶ月に1回ほど、町立図書館から本の借用を行っている。自校は町立図書館までの距離があるため、児童だけの利用は難しい。そのため、まずは周知からと考え、昨年度から定期的な利用を始めた。少しずつではあるが、認知度が上がっており、楽しみにしている児童も増えている。読み物だけではなく、調べ学習の教材にも活用し、学級貸出等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童作品掲示の依頼 <p>新たな取組として、学校から町立図書館への掲示を依頼。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生…「ぐりとぐら」のぬりえのイベントへの参加 3年生…本の紹介文の掲示 5年生…本の帯の展示 <p>1年生のぬりえは、町立図書館の取組に参加させてもらった。3年生と5年生は授業で作ったものを活用した。その様子について、学級通信や図書室内での掲示等で保護者や児童への周知も図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ②お話し「山びこの会」の読み聞かせ <p>毎月第3木曜日に、地域の方が読み聞かせに来てくださっている。心温まる読み聞かせの時間を楽しみにしている児童は多い。</p> <p>(2). 主体的な委員会活動</p> <p>今年度の図書委員は、自ら考え行動できる児童が多く在籍しており、大変活発な活動を行うことができている。児童のやる気が全校の読書推進につながるような手だて</p>						

	<p>を試みている。</p> <p>① 今年度のテーマに沿ったキャラクターの活用 個人の読書活動の軌跡が可視化されるよう、貸出冊数に応じて、キャラクターが進化していく取組を昨年度から行っている。今年度は委員会でキャラクターを決め、進化のアイテム等を自作したり、考えたりしている。</p> <p>② 図書新聞の発行 今年度、2ヶ月に1回程度、図書新聞を発行している。制作には、クロームブックを活用している。これまで、寄贈書の紹介や、委員会活動の紹介を記事にしてきた。委員全員が関わることができるような記事作りを心掛けている。</p> <p>② 月ごとにイベントを実施 ほぼ毎月、イベントを行っている。4月の「進級お祝いプラス券」に始まり、6月は「としよまつり」、7月は「七夕のイベント」、2学期に入ってから、10月に八口ウィンキャンペーンとお化け屋敷、11月に「ミニとしよまつり」などを行った。図書室にくる児童も、次はどんなイベントがあるのか、興味津々で待っている</p> <p>(3). 本の世界へ導くための取組</p> <p>① ICTの活用 クロームブックのフォーム機能を使って、学年ごとに選書の機会を与える取組を年2回行った。初めての試みなので、ICT支援員と相談しつつ実施した。2回目はただ選ぶだけではなく、理由も考えさせる2段階の形式を取った。昨年度より一歩踏み込んだ実践ができてよかった。</p> <p>③ 第4回小学生がえらぶ!“こどもの本総選挙”への参加 数年おきに全国的に行われているイベントに学校全体で参加した。アンケート用紙の記入方法など、普段気にすることのない本の情報などを知るよい機会にもなった。ISBNなど、低学年には難しい記入事項は、司書で代行した。自分が書いた本が選ばれるかもしれないというドキドキ感を感じているようだった。</p> <p>④ 読書の木 4年生が中心となって、読書の木を制作した。本の題名とイラストや紹介文を書いたメモをたくさんつけていき、児童主体の楽しいイベントになった。</p> <p>⑤ 新聞とその他の掲示 図書室入り口には地元紙の切り抜きを、カウンターにはこども新聞をそれぞれ掲示した。社会体育やスポーツ記事に、敏感に反応してくれた。</p>
<p>取り組んだ感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、児童の主体的な活動が目玉を引く。児童の発案をどう実現するかを考えることが多かった。そのため、担任・級外からもいろいろな意見を集め、学校全体で活発な読書活動につなげることができた。 ・図書室に来る児童は、読書や貸出だけが目的ではなく、工作をしたり、イベントの補助をしたりと、目的は様々である。加えて、癒しの空間としての役割を担う場面も増えている。図書室を安らぐ場所と言ってくれる児童が増えたことは、運営を担うものとして、うれしく感じている。
<p>これまでの取組や 今後の取組予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで、公立図書館との連携は、こちらから本を借用することだけだったが、児童の作品を掲示していただくことで、相互連携の形を取ることができた。 ・今年度、「朝読書の時間にきちんと読書ができる」を定着させることが、図書館教育の大きな柱になっている。できる児童が少しずつ増え、落ち着いた読書活動が朝のスタートとなり、1時間目の授業へとつなげることができている。この流れが続くよう声掛けを継続していきたい。 ・ICTを活用した取組は、児童の関心が特に高い。昨年度に比べ、より多く活用することができた。6月のとしよまつりで行った本の選書は、1年生のタブレット導入にも役立ったとの評価を得た。今後どんな実践ができるかを引き続き考えていきたい。 ・読書の楽しさを伝えるツールはたくさんある。小規模校の利点を生かし、できるだけ多くの児童に寄り添いながら、ICTをからめた幅広い読書活動の支援を行っていきたい。

(1) 地域のかで、読書の幅を広げる取組

① 公立図書館との相互連携

- ・ 定期的な本の借用

ジャンルにとらわれず、絵本、などなど、図鑑、読み物などを借用。小学生向けの雑誌には、写真も多く使用されており、時事問題なども掲載されていることから、高学年の関心が高かった。児童からのリクエストも聞かれるようになり、借りてくるたびに、ほとんどの本が貸し出されている。

- ・ 児童作品の掲示

<1年生>ぐりとぐらのぬりえ



※福音館書店 ぐりとぐら ぬりえシートより

<3年生>おすすめ本の紹介



<5年生>本の帯の掲示



「うらもみてね」

「ゆうあいとしょかんにあります」

※一言添えて掲示されている

② お話ボランティア「山びこの会」の読み聞かせ



電子黒板を使った読み聞かせの様子



終わった後の感想交流の様子

(2) 図書委員会の主体的な読書活動

① 今年度のテーマに沿ったキャラクターの活用

今年度は、一人一人にスライムを掲示し、貸出冊数の可視化アイテムとした。学年ごと

に決められた目標冊数があり、それに応じて進化していくという設定。

<めあてと貸出目標冊数>

(めあて)最後までしっかり読み終わる

- ・ 1・2年生は 150 冊
- ・ 3・4年生は 100 冊
- ・ 5・6年生は 80 冊

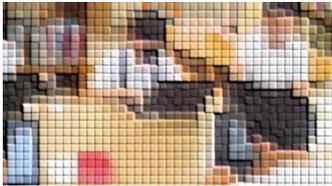
<冊数に応じた進化アイテム>

- ・ 10 冊ごとにスライムが変形していくイラストに色を塗る
- ・ 目標冊数達成→星を獲得
- ・ 150 冊達成→使い魔を獲得
- ・ 200 冊達成→盾を獲得
- ・ 250 冊達成→槍を獲得



アイテムの説明

②図書新聞の発行



<記事作りをしている様子>

<図書新聞 10月号>

③月ごとにイベントを実施

- ・ 4月「進級お祝いプラス券」を発行
- ・ 6月 としよまつり

①図書委員会の読み聞かせ



②しおりコンクール…タブレットを使って全校投票



③本の選書…あらかじめ各学年5冊の選書リストを作り、タブレットを使って投票。各学年1冊を購入



④図書委員が全校一人一人に本を選び、封筒にあて名書きをして、貸出をする



⑤お楽しみは読書の後に…本を借りるとゲームに参加できる。



⑥毎日2冊貸出

- ・7月 七夕のイベント…笹飾りを作り、お願いごとを書いて飾る。
委員以外も積極的に参加してくれた。
- ・9月 お月見プラス券の発行…手作りのプラス券を作り、
9月いっぱい配布。



プラス券は全部で16種類

- ・10月 ハロウィンキャンペーン…①ハロウィンプラス券の発行
②お化け屋敷…上学年・下学年の2回に分けて実施。
参加すると、プラス券がもらえる。



- ・11月 ミニとしよまつり



- ①本の選書…2回目の本の選書
- ②全校みんなで宝箱を開けよう！…期間中、全校で500冊本を借りると、宝箱を開けることができる。図書委員会で、タブレットで開ける場面を撮影し、全校児童には電子黒板で見せよう。中には、館内貸出券とプラス券のセットが入っていて、動画視聴後、担任から渡してもらった。

③毎日2冊貸出

(3) 本の世界へ導くための取組

①ICTの活用

- ・クロームブックを使った図書新聞の発行と動画制作
- ・6月のとしよまつりでは、選書としおりコンクールの投票
- ・11月のミニとしよまつりでは、選書

②第4回小学生がえらぶ！“こどもの本総選挙”への参加



※こどもの本総選挙ポスターより

- ③読書の木 4年生が主となり、図書の木を制作
そこに、おすすめ本やイラストなどを書いたメモを貼っていった。



④新聞の掲示

- ・社会体育やスポーツの記事
- ・白石町や佐賀県の記事
- ・イベントの記事

などを紹介した



メモは全部で6種類